

一口に「天体写真」といっても、いくつかのパターンがあります。私は以下のように分類できると考えています。

(1) 天体望遠鏡を使った天体写真

天体望遠鏡にカメラを接続して撮影する方法です。視野が狭い写真になりますが、星雲や星団、それに彗星や惑星の写真に適しています。日周運動を追尾する為に、高性能の赤道儀が必要です。

(2) 星野写真

星野さんを撮影した写真ではありません。「せいやしやしん」と読みます。主に「星座」や「北斗七星」「夏の大三角」といった、「星の並び」を撮影した写真をさします。天体写真を撮ったことがない方は、「天体写真の撮影には天体望遠鏡が必要」と思っている方が多いですが、そんなことはありません。星野写真も、赤道儀があったほうがよりシャープな星像になりますが、三脚とカメラだけでも十分に撮影可能です。

(3) 情景的な天体写真

地上の風景と、星と一緒に撮った天体写真です。「どこで撮ったのか」や「季節感」も表現できます。基本的には三脚とカメラがあれば、誰でも撮影できます。コンデジ（コンパクト・デジタルカメラ）や、スマホのカメラでも撮れる機種があります。

私は「情景的な天体写真」の分野が一番好きです。このカテゴリーでも「人工的なもの」が写る込むことを嫌う写真家もいます。しかし、私はむしろ積極的に写り込むような構図を狙うこともあります。この日もそうでした。天の川を撮ったのですが、あえて「電柱」を入れてみました。中央左の輝星は「ベガ（織姫）」です。電柱と銀河を好んだ「宮沢賢治風」の面白い天体写真になったと思います。

(2024年7月下旬／長野県小諸市)

